

防災コミュニケーション協働プラットフォーム

— 実践知を社会実装へつなぐ連携の場 —

ご案内資料

防災を広げるために「仕組み」が必要

現状

科学的知見や啓発・誘導の取り組みは増えている
しかし個人の備えは十分に進まない

問題：知見が蓄積・共有されず、有効な実践が広がらない

成功事例は、リーチ範囲や効果が限定的
十分な効果評価がなされていない
個別に試行錯誤・他地域に広がらない

ギャップ

すべき備え ↔ 実際の備え
知識 ↔ 行動
関心層 ↔ 無関心層
理想 ↔ 現実
積極的 ↔ 消極的

ギャップを飛び越え、実践を社会に実装する仕組みが必要

個人の「やる気」に依存した防災から、仕組みによる防災への転換が必要

防災コミュニケーション手法や実践結果を共有し、展開していくための協働基盤

プラットフォームの機能	内容
介入パッケージの共有	研究者や実践者で開発した介入手法を、実装しやすい形で提供し利用を促進する
実践結果の蓄積	現場の事例・ノウハウ・教材を記録し、再利用できる形式に整理する
改善による高度化	実践結果をもとに手法・教材を改良し更新する
ネットワーク形成	実践者・政策立案者・研究者を継続的に結びつける
展開支援	他地域で使えるよう適用条件・導入手順等を整理する

参加主体	プラットフォームの活用・活動例や役割
実践者（保健師・福祉職・防災担当等）	他地域の事例・教材を参考に実施する／取り組み内容を共有する／課題を相談する
政策立案者	制度設計の検討材料にする／自治体間の知見交換を行う
研究者	実装結果を分析する／手法改善のヒントを得る／知見を現場へ反映する
運営・支援チーム（当面、防災行動変容PJ内）	情報整理や交流の場づくりを行う／連携をコーディネートする／相談に乗る

つながる — 実践者ネットワーク

交流・相談・協働形成

1. 有効な実践を知る

- ・ 防災コミュニケーションの研究動向・実践事例の提供
 - ・ メンバーの活動報告・事例共有
 - ・ 学習機会となるイベントなどの案内
- (メールニュース・資料基盤)

2. 導入イメージが持てる

- ・ 先進事例の解説
 - ・ 介入パッケージの活用方法の紹介
 - ・ 課題共有と意見交換による適用検討
- (オンライン情報交換会 (年2回))

3. 実践を進められる

メンバー主体の実践を伴走支援します

- ・ 介入設計の支援
- ・ 実施プロセスの伴走支援
- ・ 有効性評価の設計・実施支援
- ・ 関連機関・協働パートナーの紹介

(運営・支援チームによるコンサルティング)

資料・データ基盤 (常時利用可)

リーフレット・事例集・Q&A・介入実施資料を提供 (公開／メンバー限定)

参加メリット

個人

- 他地域の実践事例を使える
- 相談できる相手ができる
- 説明資料・根拠が手に入る

組織

- 施策の説得力が上がる
- 効果を示せる
- 継続的に事業として実施しやすくなる

参加方法

- 本日から参加登録受付開始（本日の事後アンケートフォームからの申し込み）
- 対象者：実践者（保健師・福祉職・防災担当等）、政策立案者、研究者

今後の予定

- プラットフォームのウェブサイト準備
- 規約を準備
- 4月：プラットフォーム始動
- 6月頃：第1回情報交換会

プラットフォーム参加登録フォーム：

<https://forms.office.com/r/tXYNd7L5wy>

問い合わせ先：

防災コミュニケーション協働プラットフォーム運営・支援チーム

bbcpj-contact @ grp.tohoku.ac.jp